

Marshall

Marshall MG101CFX

エレキ・ギターのサウンドはアンプで作ろう！

エレキ・ギターの楽しみは、何と言っても「サウンド作り」にあります。歪ませたり、響きを持たせたり、揺らしたり...と、楽曲のイメージや自分の好みによって、いろいろな音色を使い分けるのが醍醐味と言えます。そこで大切になるのが「アンプを使いこなす」ということです。ギター・アンプの王様、Marshallの「MG101CFX」を例にアンプの大切さや基本的な音作りについて見ていきましょう。

音作りの基本はアンプだ！

エレキ・ギターを演奏する上で、ギター・アンプは絶対に欠かせない存在です。ギターにとってアンプとは、ただ音を大きく鳴らす以上に「好みの音色を作る」という大切な役割を担っています。「キラキラとしたクリーンなサウンドでアルペジオを弾きたい！」とか「もっと歪ませて、ロックっぽい音で弾きたい！」という具合に、曲によって好みが変わるのはもちろん、ギタリストによって出したい音は異なるはずですが。

自分の好きなアーティストの曲を改めて聴いてみてください。同じ歪んだ音でも、まったく同じ音にはなっていないはずですが、その小さな差がギタリストの個性であり、そこに多くのギタリストのこだわりが隠されているのです。

もちろんギターを音を作るのはアンプだけではありません。ギター本体の種類やピックアップ、シールド・ケーブルといった機材はもちろん、弾き方によってもサウンドは変わってきます。また、最も簡単に、かつ劇的にサウンドを変えてくれるのがエフェクターの存在です。足元にエフェクターをつないでいる人は多いと思いますが、エフェクターで作った音を鳴らすのは、あくまでもギター・アンプです。どんなエフェクターをどんな設定で使うか、もっと言うと、そのエフェクターの効果を最大限に引き出すためには、それを鳴らすギター・アンプを使いこなすことが重要になるのです。



100Wの大出力で、普段の練習からライブまで幅広い用途に使えるMarshallのコンポ・アンプ、MG101CFX
価格：オープン
(実勢価格：50,667円/税抜)

つまみの働きを知ろう！

ギター・アンプは音作りの要になる機材なので、音を調整するための「つまみ」がたくさん付いています。ギターをつないで適当につまみを回すだけでも音は出せますが、イメージ通りの音を作るためには各つまみにどんな役割があって、回すと何がかわるのかを知っておくことが大切です。

ここでは、MarshallのMG101CFXというモデルを例にアンプのつまみについて見ていきましょう。MG101CFX以外のアンプも基本的には同じつまみの構成なので、ここを理解しておけば、いろいろと応用が利くようになるはずですが。

ゲイン・コントロール：アンプに入力する音量を

調整します。このつまみを上げていくことで、歪み量を調整することができます。クリーンなサウンドが欲しい場合は下げめに、激しい歪みが欲しい場合は上げめに設定します。

クリーン/クラッチ・スイッチ：クリーン（緑に点灯）とクラッチ（赤に点灯）という2つのチャンネルを切り替えます。チャンネルについては、この後で詳しく紹介しますが、このボタンを押すことでチャンネルが交互に切り替わります。

ベース・コントロール：サウンドの低音の質感を調整します。上げていくと低域が強調されて、厚みのあるサウンドを得られますが、上げ過ぎると音抜けの悪いサウンドになってしまうので、気を付けましょう。

ODスイッチ：OD1（緑に点灯）と、よりゲイ

ンの高いOD2（赤に点灯）という2つのチャンネルを切り替えます。

ミドル・コントロール：サウンドの中低音の質感を調整します。上げていくと太く、芯のあるサウンドを作ることができます。ギターの基本となるサウンド・キャラクターをコントロールします。

トレブル・コントロール：サウンドの高音の質感を調整します。上げていくとブライトで、キレの良いサウンドを作ることができます。上げていくと、柔らかいトーンに変化します。

リバーブ・スイッチ：リバーブ・エフェクトのON/OFFを切り替えます。

リバーブ・コントロール：音に残響を加えて、広い場所で弾いているかのような広がりのあるサウンドを作ることができます。0の位置から回していくと部屋で弾いているような自然な残響を、中央より右の位置になると温かみのある残響音を得ることが可能です。つまみを回す量でかかり具合が変化します。

ボリューム・コントロール：現在、選択されているチャンネルの音量を調整します。

エフェクト・スイッチ：エフェクト（モジュレーションとディレイ）のON/OFFを切り替えます。

モジュレーション・コントロール：モジュレーション・エフェクトを使用します。つまみの位置によってコーラス、フェイザー、フランジャー、ヴァイヴ、オクターバーという5種類のエフェクトを切り替えることができます。

タップ・スイッチ：テンポに合わせてボタンを押すことで、そのテンポのディレイ・タイムが設定されます。

ディレイ・コントロール：ディレイ（山びこ効果）エフェクトを使用します。つまみの位置によってクリアなHi-Fi、アナログ的な温かみのあるTAPE、不思議なサウンドを作れるMultiやReverseという4種類のバリエーションを切り替えることができます。

外部エフェクト・スイッチ：アンプの背面にあるセンド・リターン端子に接続したエフェクターのON/OFFを切り替えます。

マスター・コントロール：アンプの最終的なボリュームを調整します。

ダンピング（マニュアル）スイッチ：パワーアンプというセクションで発生する、ダンピングのフィードバックをクラシック（点灯なし）、モダン（点灯）から切り替えます。これによって、低域の締め具合が変化します。また、このボタンを2秒以上長押しすることで、マニュアル/プリセット・モードが切り替わります。

ヘッドフォン/ライン・アウト・ジャック：ヘッドフォンやイヤフォンを接続できます。

ストア・スイッチ：現在の設定を保存します。

チャンネルを使いこなそう！

ここで、ギター・アンプのチャンネルについて考えてみましょう。エレキ・ギターのサウンドは千差万別。楽曲のイメージに合わせて、透き通るようなク



MG101CFXは4つのチャンネルを搭載。透き通るようなクリーンからモダンなヘヴィ・サウンドまで、幅広いギター・サウンドを作ることができます

リーン・サウンドから激しく歪むロック・サウンドまで、ギタリストは様々な音色を切り替えて演奏するのが一般的です。しかし、1台のアンプで綺麗なクリーンからヘヴィなディストーション・サウンドまでを鳴らし分けるのは現実的ではありません。そこで考案されたのが「チャンネル」という考え方です。MG101CFXにはクリーン/クラッチ、OD1/OD2という4つのチャンネルが搭載されており、これは「4台のギター・アンプが1つのボディに凝縮されている」と考えると、わかりやすいでしょう。

例えば、クリーン・チャンネルはクリーン・トーン専用のチャンネルで、ゲインを上げてもそこまで歪むことはありませんが、クラッチ・チャンネルではゲインが最小でも歪む...という感じです。歪みの強さで言うと、クリーン<クラッチ<OD1<OD2の順でゲインが高くなっていきます。

ここで注目したいのが、MG101CFXに搭載されている「プリセット」というモードです。このモードを使用すると、4つの各チャンネルにマスター・ボリューム以外のすべてのつまみの設定を記録させることができます。例えば、クリーン・チャンネルにはBASSを低めで、リバーブとディレイをかけたセッティングを記録。クラッチ・チャンネルにはMIDを強めて、軽くコーラスをかけたセッティングを記録...という具合です。このようにセッティングしておけば、チャンネルを切り替えると、つまみの位置に関係なく記録していた音色が呼び出されるので、演奏中でもまったく異なるサウンドへと瞬時に切り替えることができます。

なお、チャンネルが変わるだけで、他のつまみは変更されない...つまり、実際のつまみの位置のままにチャンネルだけを切り替える「マニュアル・モード」も搭載されているので、用途に応じて使い分けられます。

音作りはここから始めよう！

アンプの基本がわかったところで、音作りについて見ていきます。音作りにはルールや正解がないので、最終的に自分が「カッコ良い」と思う音を作ることができればOK。しかし、アンプにはつまみがたくさんあるので、闇雲に設定していくのではイメ

ージした音を作るのは大変です。

そこで、まずはBASS、MID、TREBLEを時計の12時の方向...真ん中にセッティングするところから始めましょう。真ん中のセッティングは多くのギター・アンプの初期値なので、まずはこの音を基準に音を作り、最後に微調整するようなイメージで使うと、欲しい音作りがしやすいでしょう。

チャンネルとゲインの考え方はアンプだけで歪ませるのか、それとも歪み系のエフェクターをを使いたいのか、はたまたエフェクターとアンプを併用した歪みを作りたいのかによって、使い分けになります。例えば、エフェクターで歪みを作りたい場合はアンプ単体では歪まないようなセッティングにしておき、歪みの質感はエフェクターで調整していくのがやりやすいでしょう。一方、歪みをアンプで作るのであれば、クランチやOD1、OD2といった好みのチャンネルを選び、ゲインで歪み具合を調整していきます。

アンプとエフェクターの歪みを組み合わせたい場合は、最終的に作りたい歪みの量を頭の中にイメージすることが大切になります。最終的に「80」の歪み具合が欲しいとしたら、アンプで「40」、エフェクターで「40」という具合に歪ませる割合を調整していきます。例えば、「曲のバックはクラッチで、ソロの時はディストーション・サウンドで演奏したい！」という場合、アンプはクラッチに設定しておき、ソロの時にエフェクターを踏んでブーストさせるような使い方が定番です。

便利で、楽しい機能が満載

MG101CFXは純粋にギター・アンプとして優れているだけでなく、便利で、楽しい機能も満載です。例えば、チューナー機能や音作りに欠かせないエフェクト機能を備えており、コンパクト・エフェクターを持っていなくても、アンプだけで十分な音作りができます。また、アンプの背面にはスマートフォンや携帯音楽プレイヤーなどを接続し、お気に入りの曲に合わせてギターが弾ける「MP3 Line In 端子」やアンプを鳴らさずにヘッドフォンやイヤフォンで音が聴ける「ヘッドフォン/ライン・アウト 端子」など、個人練習にピッタリな機能も搭載しています。



MP3プレイヤーの入力端子やヘッドフォン/イヤフォンの出力端子も搭載。個人練習にも最適です